

ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行 2019年26月1日

6月号・第12号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



◇ ◇ ◇ ◇ ◇

Contents

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

新旧会長挨拶……………	①	美味旬感&奈良学・難読野菜名クイズ……………	⑪
リレー随筆・お元気ですか！……………	②	青垣春秋……………	⑫
新風……………	③	自然俳句……………	⑬
イベントレポ1……………	⑤	癒しの散歩道&緑風静々……………	⑭
イベントレポ2……………	⑥	蕎麦文化あれこれ……………	⑮
Monthly Repo.ならやま……………	⑦	インプリ入門講座&6月例会案内……………	⑯
自然観察レポ……………	⑧	ならやま景観整備&情報BOX……………	⑰
やさしい昆虫講座⑱……………	⑨	息づく自然……………	⑱
鳥シリーズ&地域情報……………	⑩	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記……………	⑲



会長就任の ご挨拶

藤田 秀憲

このたびの役員改選で、会長に就任いたしました藤田でございます。

阿部前会長の大きな功績の後、会長をお引き受けすることは、身の引き締まる思いでございます。

本会も昨年秋に10周年を迎え、新たなる10年を目指して歩むこととなりますが、「奈良・人と自然の会」が会員の皆さま方にとって「楽しく、心豊かに活動できる場」でありますように、微力ではございますが、全力を尽くす覚悟でございます。

【ならやま景観整備】【例会】【自然環境教育】の3つの柱を中心に、行政をはじめ地域社会との関わりを大切にしながら、幹事一同力を合わせて、活動の進展に努める所存です。

まず【ならやま景観整備】ですが、「ならやま里山林」「ならやま自然の森」「佐保自然の森」に加え、このたび、県からの委託を受けて、今秋から新たに約2ヘクタールの林地の整備に取り掛かる予定です。

次に【例会】は、より多くの方々にご参加いただけるように、ハイキングや自然観察に加え、歴史・文化探訪など魅力ある企画を盛り込みます。

さらに、自然教室・自然工作を含む【自然環境教育】については、社会貢献の一環として今後とも積極的に取り組んでいく所存です。

どうか会員の皆様方には、いずれの分野にも積極的にご参加いただきますとともに、ご支援とご協力をお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。



退任の ご挨拶

阿部 和生

第11回総会を以って4年間の会長の職務を辞任し、藤田新会長へのバトンタッチができました。この間多くの皆様方、幹事の方々にサポートされ、大過なく今日を迎える事ができました。心より感謝いたします。

会設立以来の「例会」も10周年を機に、内容に変化を持たせ、より多くの皆様にご参加して頂けるよう工夫を加える事ができスタートしています。自然観察チームという地域校庭観察会を柱とする新しい取り組みも定着しつつあります。また第2ステージと位置付けた「ならやまプロジェクト」も、事業区域の拡大と共に「ならやま景観整備事業」と名称を変え、さらなる飛躍・充実を目指しています。

外部の識者による刺激や、行政をはじめとして、さまざまな機関とのご協力も得て、新会長藤田秀憲氏を中心とした幹事の皆様方の活動が、さらに「会」の進展を促すことになることと確信しています。

幹事・会長の役員からは外れますが、体調を整えつつ、ライフワークの森林＝自然を、さらに探求したいと考えています。これまでのご支援を深謝し、離任のご挨拶といたします。有り難うございました。





「VIVA ならやま！」
古川祐司

「奈良・人と自然の会」の幹事を拝命して8年、時は瞬く間に過ぎた。ことに、ならやまプロジェクトの責任者としての5年間は、まことに胸躍る日々だった。何よりも先ず、数多くの素晴らしい出会いがあった。市街地の中に奇跡的に残った里山との出会い、里山を愛する仲間との出会い、地元の人たちとの地縁・人縁の拡がり。そして、モザイク模様の人の集まりが、素晴らしいチームワークを生み、楽しい雰囲気の中で、信じられないような実績をあげた。お互いがボランティア活動の魅力と力に感動した。ならやま里山林整備事業」と名付けたこの活動だが、全国の里山が危機に瀕しているのに、都会で里山を維持できるはずがないとも言われた。しかし、里山の記憶を持つ最後の世代である今のシニアのロマンとして、荒廃した里山を取り戻し、現代にも通用する「新しい価値」を見出すことに特別の思いがあった。

幸い、各方面からのご支援を頂いて、事業は予期した以上に早く軌道に乗った。当初の「ならやま里山林」に4か所の森が加わって約20Hrの事業規模となり、里山の保全に止まらず、有機農業、椎茸づくり、蕎麦作り、ビオトープ、市民の森づくり等、様々な里山の魅力が開発され、人を惹きつけ、社会へも発信し始めた。活動を支える多様な人材が揃い、名称も「ならやま景観形成事業」として、次なるステップを迎える。バトンタッチをするにあたり、ならやまでの活動がさらに深まり、この里山が、関わる方々にとって「心の風景」となって根付くことを夢見る。なお尽きぬ思いと心からの感謝をこめて、エールを送りたい。



ならやまの自然に親しむ

菊川年明

平成8年の夏に千里ニュータウンから奈良の地に引っ越してきました。奈良は昭和32年の春から4年間、ある国の機関の出先に勤務していましたので馴染み深いところでした。

私の幼少時はいわゆる昆虫少年で、その後も昆虫採集こそ止めていましたが、写真撮影を中心に昆虫に親しむことは続けていましたので、奈良に移った私は余暇に、今私たちが「ならやま」と呼んでいる丘陵などで昆虫写真を撮り歩く日々を過ごしていました。

今では本会の活動の一環でこの丘陵にはつきりした道がつけられましたので、南北に貫通していますが、当時は丘陵を貫いて反対側へ通り抜けることは容易ではありませんでした。迷い込んで途中から引き返すこともありました。

平成18年の早春、私のそうした行動が当時本会に関係していた某氏の目に止まり、そのご縁で会員になりました。以来、活動の傍らに昆虫観察を楽しんでいます。

ならやまベースキャンプの前のクワの太木には、カイコの祖先と言われているクワコが毎年発生し、野生の繭を作ります。

このクワの木には、超大型のテントウムシであるハラグロオオテントウも5月初旬に見られます。直径は約13mmで、ナナホシテントウの約2倍（直径）の大きさで、少し珍しい種類です。

初夏には湿地で発生するサラサヤンマという美しいヤンマが現れます。わが国産ヤンマの最小型種ですが、生息地が限定的で、希少種です。

そのほかにもコナラ林に発生するウラナミアカシジミやミズイロオナガシジミ（いずれもチョウ類）など、希少種の昆虫を数種類確認しており、まだまだならやまの昆虫には興味が尽きません。



《奈良・人と自然の会》とともに

八木 順一

「平城山の一体どこやろ？」こんな不安な気持ちでこのサイトを訪れて早3年。本当に月日の経つ早さには、自分ながら驚かされます。しかし、草刈に明け、草刈に暮れる日常からは、会の活動や姿、ましてや全体像などは勿論のこと、これからどのような活動をしていったらよいのか迷う日々が続きました。

しかし、4年目を迎えてこの春、幹事を仰せつかることになりました。若輩者がと心中思っておりますが、周りに居られる大先輩を見習いながら、また「私たちは、大和の自然を愛します」というこの会のスローガンを少しでも実践できるように頑張っていきたいと思っています。どうかよろしくお願いいたします。



『原点を忘れないように』

羽尻 嵩

里山の再生活動始まった頃の写真を見る。そこからは、創意工夫、一致協力によって、荒れ地を切り開いていった先輩諸氏の熱い思い、開拓者魂が伝わってくる。

そして・・・今。「ならやま」は里山再生活動の基盤がほぼできあがっている。したがって、新入会員はその居心地の良さに浸ってしまいがちだ。しかし、それはまた、草創期の創造的なエネルギーが癒えかかっている兆候かもしれない。

活動内容が増え、会員も増え、組織が大きくなると、組織が独り歩きしていく。組織は人のためであって、人が組織のためにあるのではない。草創期の原点を忘れてはいけない。

私が幹事？

青木 幸子

「え～私が幹事？とんでもない！絶対無理です！出来ません！固くお断りします。」と言ったのに・・・いつの間にか阿部会長のあのニコニコマジックに掛かってしまいました。（きつとあの笑顔で奥様も口説かれたのでしょうか、と思ってしまうほどのです。）

名前を載せられた以上、会の為に何かお役に立ちたいと思いますが、何をすればいいのか・・・。力もなく不安でいっぱいですが、優しい皆さまのご指導を頼りにしています。これからもストレスをためないように、笑顔で楽しく過ごしたいと思いますので、どうぞご指導をよろしくお願い致します。



新幹事のあいさつ

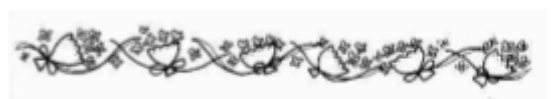
富井 忠雄

私は、法隆寺近郊に住んでいまして、特に斑鳩地域・矢田丘陵・信貴山・二上山の歴史文化と素朴な田園風景の自然観察などの散策をしています。特に世界遺産である法隆寺の建物・仏像などに魅せられています。

会に昨年入会して、この1年は農園活動を通じて四季折々での農作物の土作りから収穫まで先輩達に教えてもらい楽しく参加しています。また、ならやまの風景の移り変わりにも感動しています。

今回、先輩達が沢山おられる中、幹事に推薦されました。まだまだ未熟な私ですが、これからは会の為に頑張るつもりです。

それには、皆様のご指導ご鞭撻を賜り、ならやまのフィールドで皆様と共に楽しく・無理をせず活動を続けて行きたいと考えています。どうかよろしくお願いいたします。



幹事就任にあたって

高本 実男

当会に入会して3年目をむかえ、今回、幹事という大役をおおせつかりました。十分に職責をはたせるかどうかはなはだ疑問ですが、私なりに一生懸命務めさせていただきたいと思っております。

奈良（佐保台）に移り住んで20数年になりますが、「ならやま」フィールドのここ数年間の光景の変貌は著しいものがあり、見違えるほどの風景となりました。

これは皆様のご努力の賜物であります、さらにすばらしいものとするために微力ながらお役に立ちたいと考えております。

また、自然の不思議や魅力を伝え、自然に親しみ、心豊かな子供たちが育つよう自然環境教育にすこしでも力添えができればと思っています。

《自然工作チーム》スタッフ募集

森川 生一

本会の重要な役割の一つに、自然を大切にす次世代を育成する活動があると考えています。私達だけの活動に終わらせることなく、子供達が私達の意志を引き継ぎ、人と自然を大切にする奈良を創ってほしいと思います。

そのため、私達《自然工作チーム》は、自然から得ることができる、自然にどこにでもある木の実、枝、葉、蔓、材等を加工し、楽しい作品、創造的な作品を作ることにより、子供達に自然と触れる喜びを感じてもらえる活動をしたいと思います。

私自身は工作経験が少ししかありません。そこで、昔こんな工作をしたよとか、こんな作品が作れるよという方は、ぜひ《自然工作チーム》のスタッフに参加していただき、私を含めてご指導ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

タスキ受け 走る行くての 遠霞

井戸 八穂子

このたび、これまで会の発展にご尽力された先輩方から幹事というタスキを受け取りました。これからつつがなく走り終えて、次の方に無事にタスキを渡すことができましたら幸いです。嬉しくもこの会には、いろいろと相談できる方々がたくさんいらっしゃいます。とても心強いかぎりです。

区間賞を狙えるような走りができればいいのですが、ときには立ち止まることも、家庭の事情でほかの幹事の方にご迷惑をおかけすることもあるとおもいます。皆様には、大目にみていただいて、ときどき激励の水などを差し入れてくださればありがたいです。

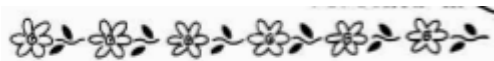
「無理せず」「楽しく」をモットーに、なんとか頑張りますのでよろしくお願いいたします。

皆さまのお力添えを!!

奥野 美佐子

大型連休のノンビリムードがまだ抜けきれずにいる頃、我が家に運び込まれたダンボール2箱。領収書やイベントの記録など昨年度の会計の資料です。その量の多さに、私たちが安心して楽しく活動できるのも、水面下で入念な準備をして頂いていたからだ、改めて思いました。会計を引き受けなかったら、気づかずにいたかもしれません。

さて、肝心の会計のお仕事ですが・・・前任の板橋さんから細かく、丁寧に引継ぎをして頂きましたが、今はまだ頭の中はパニック状態です。一日も早く会計の流れをつかみ、無駄な出費を抑え、時にはふんわりと行っていいなと思っています。皆様のご協力よろしくお願いいたします。



イベントレポート1

「歴史文化クラブ」

第1回研修会報告

5/15(火) 10時 近鉄郡山駅東口集合、晴天の中、近鉄郡山駅に23名のメンバーが集まり川井代表のあいさつの後、最初の目的地春岳院へ出発した。

行程：近鉄郡山→春岳院→^{やくおん}薬園八幡神社
→外堀緑地公園(昼食)→^{めた}賣太神社 → JR郡山、近鉄郡山で解散

春岳院は豊臣秀長公の菩提寺であり、秀吉政権を補佐し続けた人の菩提所にふさわしい地味で目立たない寺であるが、四方仏の七重石塔は一見の価値あり。次の目的地は^{やくおん はちまん}薬園八幡神社である。地元ではやくおんさんと親しまれており、奈良時代に九州の宇佐八幡から勧請された古社である。社前の狛犬は雄と雌がはっきりと刻まれておりめずらしい。女性宮司さんの親切な説明を聞き、全員で記念撮影。外堀緑地公園で昼食後、初回ということもあり全員の自己紹介を行った。歴史のプロからアマチュアまでと皆さん多士済々であるが、共通しているのは全員歴史が大好きということである。



^{やくおん はちまん}
薬園八幡神社境内にて



社殿の前の狛犬、雄と雌がはっきり判る

自己紹介後、古事記の口伝者^{ひえだのあれ}稗田阿礼の出生地であり阿礼を祭る^{めた じんじゃ}賣太神社に向って田舎道を30分ほど歩いた。

^{めた じんじゃ}賣太神社の宮司さんより古事記の序文の部分の解説をして頂いた。



古事記は古代日本人の生き方や考え方を偲ぶ貴重な文献だが、物語としての性格も持っている。易しい読み下し文を再度、読んでみるのも面白いであろう。稗田の環濠を見学しながら帰途についた。

第1回目の研修会であったが、お天気に恵まれ楽しく見て回ることができた。歴史への憧憬と好奇心旺盛な男女23名の歴史探訪の旅であった。

次回は6月2日(土)「和邇の里をめぐる」天理市北部方面です。

(歴史文化クラブ 杉本 登)



「私市植物園で

春の魅力を探そう！」

5月22日(水)「奈良は午前中雨」という気になる天気予報にも関わらず、23名の方が私市植物園の観察会に参加していただきました。この中には「自然と仲間で見たい」という講座生、また会員の友人の方もおられて賑やかになりました。たまたま園内に来ておられたご夫婦の方も午前中一緒に加わっていただきました。

今年は例会の内2回を自然教室チームが担当することになりましたが、今回はその第1回目、とにかく楽しい観察会ができるようにと、チームのメンバーでいろいろ工夫をし、分担をしました。

まず午前中の1時間強については職員の方



に「植物園の見どころ案内」をお願いしました。

メタセコイアとヌマスギ、きれいに花の咲いたユリノキ、これから花を咲かすアオノリュウゼツラン、バニラの香りのカラタネオガタマ、いたるところに実生を展開するチャンチンモドキなどについて解説してもらいました。すばらしい案内でした。

ついで自然教室チームスタッフがネバネバにびっくりのトチュウ、セコイアメスギやセコイアオスギと高さを比較したメタセコイアのインプリなどを交えて案内をしました。

また自然の中でいろいろな形を見つける

ネイチャーゲーム「フィールドパターン」をしながらユリノキ広場に集まりました。

昼食後、再びネイチャーゲームの「不思議な散歩」と「目隠し歩き」を楽しみました。普段は顔を映す鏡ですが、視点を変えて使うと本当にびっくりするような不思議な世界が現れ、歓声があがっていました。また目隠しをしてペアの相手にガイドしてもらい、いろいろな自然に五感を持って接する「目隠し歩き」は目隠しをすると平常とは違った世界となり、他の感覚が研ぎ澄まされる体験をし、併せて視覚の有難さを実感しました。

その後は午後の自然観察会でした。2班に分かれて、花木園を中心にハクサンボク、ハナйкаダ、コクサギなどのインプリも交えながら、今咲いている花や出来ている実など不思議いっぱい自然観察を楽しみました。昆虫博士がシデムシやコハナムグリの解説もしてくれました。

最後は大きなクスノキの前に集まり、みんなでロープを広げて、日本一の巨木の大きさを体感するインプリで締めくくりました。



このほかにもカラスノエンドウのピーピー笛の製作、イヌマキの葉の手裏剣作りなどの自然遊びを楽しみました。

単に植物観察にとどまらず、ネイチャーゲームや自然遊び、更には昆虫観察とバラエティに富んだ観察会となりましたが、参加者からは「変化に富んで面白い観察会だった」「いろいろ覚えて有意義だった」といった感想をいただきました。何とか天候にも恵まれ、参加者皆様のご協力を得て、賑やかで楽しい観察会ができたものと、チーム一同喜んでおります。

(倉田晃 記)

Monthly Repo. ならやま

4/26 (木) 曇り一時雨 10人

前日の天気予報によると雨の確率が70 %のため自動的に活動は中止。しかし予定が遅れるということで、ナスとインゲン畑の準備、草刈りが行われた。ウメの毛虫に対して生物農



薬（毛虫のみを病気にさせる薬剤）の散布。

4/30 (月) 曇り 26人

臨時の活動日、彩の森の伐採木のチップー処理の遅れとナスの定植時期の遅れのため。

チップー機は小粒ながらよく働いてくれ、太さ5cm前後の枝までバリバリと噛み砕き、あっという間に木屑にしてくれる。しかし調子によって与えすぎると、喉に湿った木屑をつめるなどトラブルも起こった。

農園ではナス、ピーマンの定植も進み、収穫が楽しみ。ナスの大敵テントウムシダマシも遠くから様子を覗いていた。



ジャコウアゲハの食草（ウマノスズクサ）にオスの蝶が訪れた。

5/3 (木) 曇りのち晴れ 42人

彩の森でのチップー処理は順調。里山グループは27、28地区の整備、農園ではサツマイ

モの植え付けと除草。ビオトープ池はアオミドロの発生が多いので除去作業。

女性陣による春の野草のテンプラが準備され、ヨモギ、タラの芽、ドクダミなど8品目の料理に舌鼓をうった。



5/10 (木) 晴れ 47+1人

チップー処理は機械も扱う人も慣れ、順調に枯れ枝の山がなくなっている。山グループは28地区を終えて26地区の整備にはいる。さつまいもの植え付けが終わり、田植えに向けた水路整備を始まった。近畿大学との協同作業、ニホンバラタナゴの導入に向けて産卵場所となるドブ



ガイの換えが行われ、貝には名前代わりに背中に大きな背番号を描いて新池に放した。

農園で初に収穫されたスナップエンドウの油いため、イタダリの和え物、キクイモのサラダなど新鮮な野趣豊かな食材を賞味。

ならやま人の大敵、マムシ、オオスズメバチが初登場。

5/17 (木) 晴れ 42人+3人

里山は27地区の整備をはじめたがかなり手ごわいとのこと。カラスが農園のエンドウにいたずらを行う。菜の花の収穫は順調。ビオトープ池はアオミドロとの戦いを続行。景観では花の植え替えが忙しい。チップー処理はあと2~3回かかりそう。

自然観察レポ

ペタキン日記

羽尻 嵩



奈良の方言で、
ッポンバラタナゴを
ペタキン”という。

4/24 (火)

伐り出しておいた竹で池の柵作りをする。
田中修さんと2人で、麻ひもとハウズバンドで
くくっていく。きちんとくくっていくのは長い
人生の中で初めての経験だ。私なりに
に研究して結ぶが、先人の技術を習得してい
れば、もっとうまくやれたかもしれない。
池の上段の水の流れも整備ができ、これで池
作りは、ほぼ完了！ バンザイ。

4/27 (金)

春の日を受けて、池に水が流れている。ふ
と見ると何か動くものが見えた。網ですくう
と透き通るような色をした5センチ大のエビだ。

(後で調べたが、筋模様がなくて、スジエビで
はなくヌマエビの一種ではないかと思う) どこ
に潜んでいたのか。なぜここにいるのか。心
地よさそうにゆったりと遊んでいる。感動！
しかし、後で調べてみるとスジエビは稚貝を
食べるとある。世の中難しいものだ。

5/10 (木)

風薫る5月。「ならやま」も、すっかり爽や
かな新緑に覆われた。しかし、ペタキン
さんの新居では、網に入れておいた金魚が病
原菌にやられていた。排水ポンプで泥水を掻
き出したり、池に炭を入れたりする。さらに、
池が病原菌で汚染されていないかも調べなけ
ればいけない。そのため、ペタキンさんの引
越しは6月7日以降に延期となった。池の周
囲をネットで囲う。周りの景観に溶け込んで
いる。われながら満足。近大の学生諸君とタ
ガイ10個を旧池から取り出し、殻に番号を記
して新池に移す。

ならやま里山林花だより

吉村 さつき

5/10 (木)

木々の緑が美しく心がなごみます。花壇では、
矢車草（ヤグルマギク）が色とりどりに咲き見
て見てと言っているようです。

野にはハハコグサが頭状花序の黄色い花をつ
け葉と茎には白い綿毛をつけています。秋に芽
生えてロゼットで越冬します。

春の七草では御形（ゴギョウ）と呼ばれます。
名前の由来は綿毛が子供を包む母親のように見
えた事とか、昔は草団子にして食べた「葉っこ
草」が転訛したと言われています。



ハハコグサ

*木の花

カマツカ、
ツクバネウ
ツギ、コバ
ノガマズミ、
ウスノキ、
モチツツジ、

ナワシログミ、アケビ、サワフタギ、クサイチ
ゴ、ノイバラ

*草花

ハハコグサ、トウバナ、スズメノテッポウ、
アメリカフウロ、ムラサキカタバミ、カタバミ、
ヤエムグラ、トキワハゼ、ムラサキサギゴケ、
マツバウンラン、キュウリグサ、ジシバリ、ウ
マノアシガタ、ハルジオン、サクラマンテマ、
ノミノフスマ、ノアザミ、ニワゼキショウ

*花壇

矢車草（ヤグルマギク）、スズラン、シャガ、アイ
リス、ジャーマンアイリス、ナデシコ、紅白ア
スター、ヒメウツギ、ハナビシソウ、ユウゲシ
ョウ、アヤメ、キンセンカ

ならやま里山林鳥だより

小田 久美子

今月から夏時間。田中さんの2度目の参加、3
人で10種50羽を確認しました。

【6月のバードウォッチング】

➡ ➡ ➡ 6/11(月)です。

やさしい昆虫講座 ②0

木村 裕

人家に住み着く いかもの食い

「シミ」という虫
をご存知ですか？
紙魚、衣魚とも
書きます。

昔はどこの家庭でもごく普通に室内をうろついていた虫ですが、最近はなかなかお目にかかれません。しかし、古い本や掛け軸を所蔵されているお宅では書庫や本棚の隅でチョロチョロと這い回っているのが見られることと思います。

成虫も幼虫も魚のような形をしています。生涯まったく姿を変えず、羽根もないことから昆虫の仲間たちの間では最も時代遅れ（原始的）な虫だと見下されています。

長さは2 cm前後、銀色で細長く、尾端に長い3本の尾があります。でん粉が好物で、昔から本の糊を慎ましく舐めていました。しかし、化学的な人工糊が出現してからは、それとも知らずに食べて中毒を引き起こすなど事故が相次いだこともあって、我がシミの世界では「あれは我々上品なシミ族の食べる物ではない」とおふれが回って敬遠しております。そのせいもあって慢性的な食料不足となり、仲間たちも少なくなってきたのが現状です。

羽根はなくても
昆虫だよ

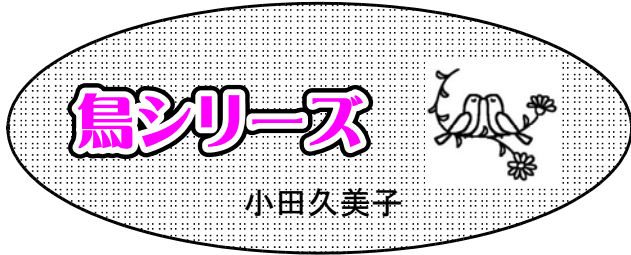
いっとき壁に貼るクロスにでん粉のりが使われて喜ばしてくれたのですが、それも人工糊に置き換わり、住みにくい世の中となりました。最近はダンボールや上質の紙を使った高価な書籍や掛け軸をありがたく頂戴しております。豊富にある安い文庫本や単行本はゴミ以外の何物でもありません。

単身者など掃除嫌いで埃や食べ物かすが散らかっているお家は非常に住み心地がよいので不動産屋を回って一生懸命探しています。いま腹ぺこですので、どなたかオブラート紙をお持ちではありませんか。1万円札をいただくより何倍もありがたいのですが。

古い本に穴をうがってトンネルを掘るのは「シミ」ではなくて「シバンムシ」と言う甲虫です。成虫になっても3ミリにも満たない褐色で筒状の虫です。昼表にも穴をぽつぽつとあけるほか、古くなった柱や梁にも食い込み内部を食い荒らします。貯蔵穀物や小麦粉、ビスケット、乾燥させた薬草、香辛料、シイタケ、ソバなどが主要な食べ物です。人が食べると中毒すると言われているタバコも好きです。値上がり前に買い込んだ大量のタバコは狙い目です。さらに新聞紙上でも取り上げられた猛毒のトリカブトの根でも食べることができます。

一方、植物は嫌いだが干物になった肉は大好きという虫がいます。「カツオブシムシ」と言う甲虫で、保存中のカツオブシ、煮干、乾し肉、フカヒレなどをポリポリ食べます。何処にでもいるので、油断しているとあっという間に失敬されてしまいます。子供の夏休みの昆虫採集品がいつの間にか針だけになっているのもこの虫が食べた残骸です（針は美味しくない!）。また、海外ではこの肉好きな性質を活用して骨格標本づくりに利用しているそうです。骨の隅々まで肉を食べてくれるのできれいな標本ができあがります。それゆえミイラにとっては最も嫌な相手です。

いかもの食いには、羊毛や毛皮製品にかじる「イガ（衣蛾）」と言う蛾の幼虫がいます。繊維をかじって穴を開け、糸を紡いで蓑を作ります。化繊には見向きもしませんが大事にしている高級な衣類がだいなしにされます。また、ヒメマルカツオブシムシと言う甲虫の幼虫も毛皮製品が大好きです。成虫はマーガレットやデージーの花に集まっています。



◇◆◇がんばれにつぼん!!の◆◇◆

“ツバメたち”

元気に飛び廻る燕尾を「今年も無事帰ったんだ～」と毎年嬉しく眺め、私の周辺ではあまり変化を感じてはいませんでした。3月号で「スズメの減少」をテーマにしましたが、実は「ツバメ」も近年スズメ以上に減少しているようなのです。原因はスズメと同じく住宅の変化・餌不足・天敵カラスの脅威です。

5/14の毎日新聞に以下の記事を見ました。
1972年から愛鳥週間に合わせて、石川県内の小学校で40年調査された結果。1972年の33332羽→2011年の11708羽と約1/3になったと報告。

直後、全国的なツバメの減少を危惧した野鳥の会本部からも支部宛に、不特定多数に呼びかける調査依頼が来ました。皆さんの近所では今年もツバメはいますか。調査に協力して頂ける方は小田までご連絡下さい。折り返し調査シートを送らせて頂きます。締め切りは7月末、どうぞ宜しくお願いします。益鳥ツバメたちにエールを。



地 ★4/28(土)「ヒバリさん、ごめんなさい!!」のできごとがありました。

三郷町大和川の明治橋下にて子供達30名程と昆虫観察会をしていました。草が生い茂り虫たちの楽園でした。子供達はみんな草の中を楽しそうに歩き廻っていました。その時、ヒバリが虫をくわえて歩いて来ました。子供達に「ここから先は行かないように」と言いましたが、時遅しでした。そのヒバリは草の中へ。ピーピーとヒナの声がします。あの虫をやっているのでしょう。しかし、その後すぐに、血相を変えたようにお母さんヒバリが飛び出してきました。

その後からお尻をふりふり必死に後を追う3羽の子供のヒバリ。お母さんが子供

たちを必死に守って引っ越しさせていたのです。ヒバリさん驚かせてごめんなさい!!

* (斑鳩) 5/14 (月) 竜田観音の前のエノキにチョロチョロと飛ぶ小さな影ピピピ・・・10数羽います。よく見るとエナガです。鳴き声、飛び方などからヒナの様です。エノキの木がエナガの木になったと思いひとり笑っていました。(勝田)



情

報

美味旬感

アザミ

アザミはキク科の植物ですが、種類は多く100ぐらいあります。大体食べられますが、ならやまでこの季節に咲いているのは大抵ノアザミです。

春から芽を出してきますが、一株から次々と芽を出すので今でもやわらかい芽や葉があります。上部で分枝して各々の先に花をつけますが、刈り取ると二番芽が出ます。遅くに出てくる若芽を利用できます。鋭いとげがありますが、若芽のトゲはゆでると気になりません。

若芽や若い葉をゆでて、しっかり水に晒してアクを抜きます。その後油いためや和え物にします。天ぷらならもう少し大きくなった若葉でもOKです。

やわらかい茎はすじを取って茹で、水に晒し、適当な長さに切って煮ます。落のような、若ごぼうの茎のような一品ですが、食べてみ

自然をちょっぴりいただきます！

西谷 範子

るとひと味違います。東北の民宿などででるご馳走です。根はごぼう状ですが、掘りにくいのであまり使いません。

でもなんと言っても絶品は薫り高いヤマゴボウのきんぴらです。但しこれはモリアザミの根のことで、近くにはありません。岐阜や信州などに多くありましたが、今は少なくなったようです。お土産屋さんでヤマゴボウの醤油漬けなど書いてあるものは、昔はモリアザミの根のことでしたが、だんだん若いごぼうの根を似せて作っています。でも最近「若ごぼうの〇〇」とちゃんと書いてあるものが多くなりました。



ノアザミ



モリアザミ

奈良学 & 難読野菜名クイズ



【問1】 上の写真は、ある寺院の西金堂回廊で、少女たちが創作舞踊を演じている光景です。この西金堂には天平時代の建造物として貴重な国宝が安置されています。真言律宗のこの寺院の名称を教えてください。

【問2】 この寺院に、文豪・堀辰雄が訪ねたのは、昭和何年何月何日でしょうか。

【問3】 次の漢字で書かれた野菜名の読み方を、ひらがなでお答えください。

- ① 秋葵 ② 葫 ③ 草石蚕

◆全問正解の方(1名)に、奥飛騨名産の伝統野菜を進呈します。(正解者多数の場合は厳正な抽選により決定)

◆当選者のお名前は、[ネイチャーなら] 7月号に掲載します。

◆応募方法は、メール(編集チーム・鈴木宛)をお願いします。

※ 応募締切は、6月5日・午後8時 ※

青垣春秋

7月例会『葛城氏の歴史を歩く』

奈良県の南西部の豪族「葛城氏」は、4～5世紀にかけて古代ヤマト政権と拮抗する実力を持った集団でした。朝鮮半島外交で大いに活躍し、多くの渡来系集団を受け入れました。彼等は葛城氏の配下で金属加工（武器・武具など）等の手工業に従事し、葛城氏の経済力の強化に貢献しました。歴史学者の直木孝次郎氏は、5世紀のヤマト政権はまさに「大王と葛城氏の両頭政権」であったと述べています。

葛城氏の祖「襲津彦」は、「日本書紀」の神功皇后摂政紀・応神天皇紀・仁徳天皇紀に、しばしば朝鮮半島へ派遣されたことが記されていて、実在性の高い人物といわれています。一族は歴代の大王家に后を出し、外戚として権勢をふるったと想像されます。有名な磐之媛命は、仁徳天皇と結婚し大王家の血筋を引かない太后（おおきさき）として初めての例となりました。

石之日売命（磐之媛）は「甚多く嫉妬みたまひき」と古事記に記されていますが、愛情の深さを表す歌も万葉集に収められています。彼女が紀の国に行った留守に、天皇が八田皇女を宮中に入れたことに激怒し、山城の筒城宮（京田辺市）に移り住みます。天皇の和解の申し出にも動かず、ここで亡くなります。八田皇女は有力な豪族の和邇氏の出身の母を持ち、仁徳帝の異母妹で「皇女」でしたから、葛城氏出身の太后である彼女には到底受け入れられないことだったのでしょうか。

因みに、彼女の子達は、仁徳天皇を継ぎ、履中・反正・允恭と天皇になります。その後も、葛城一族からは、大王家に后を出し続け、その子から天皇を輩出します。葛城氏は、5世紀後半、葛城円大臣（つぶらのおおおみ）が大王家の内部抗争に絡んで雄略天皇と対立して亡ぼされます。

かくばかり 恋いつつあらずは 高山の ^{いわね ま}磐根と枕きて 死なましものを
ありつつも 君をば待たむ 打ち ^{なび}靡く わが黒髪に 霜の置くまでに（万葉集）

つぎねふ ^{やましろうがわ}山城河を ^{のぼ}河浜り ^{のぼ}我が浜れば
青丹よし ^{なら}那羅を過ぎ ^{おたてやまと}小盾倭を過ぎ
我が見が欲し国は 葛城高宮 ^{わぎへ}吾家のあたり

（古事記 ^{いわのひめのみこと}石之日売命）



甲冑形埴輪



家形埴輪(宮山古墳出土)

奉納小町のかほや花の雲

古川祐司

歴史・文化クラブの誕生。大和郡山市 下見における一景。
葉園八幡神社の三十六歌仙の掲額、小野小町の艶やかな
色彩感。

鵜の首のひとつ覗ける花筏

古川祐司

稗田の環濠集落を歩く。水郷に鵜が一匹ご到来、
花筏の列が乱れる。
野暮な闯入者も、落花に免じて風情とするか。

記紀解くや奈良を一步の聖五月

川崎和江

五月十四日 本番。さわやかな五月。緑陰にて宮司の
語り部を聞く。千三百年の時空を経て太古の世界が
広がる。「奈良の一步」は歴・文クラブへの応援
メッセージか。



自然俳句

監修

川井秀夫

記紀ありて売太の社の夏落葉 川井秀夫

初夏の日差しが眩しい。歴史・文化クラブの発足に
祝福の光り。葉擦れの音は、稗田阿礼の言霊か。

豆畑に見え隠れして夏帽子

川井秀夫

雑草取り、吊り手の修復作業。女性たちのカラフルな
帽子が隠れるほど。

茄子は成す苗百本の新天地

川井秀夫

茄子クラブ五年目の挑戦。四月三十日 百本余植苗。
新しい耕地に豊かな実りを祈る。

癒しの散歩道

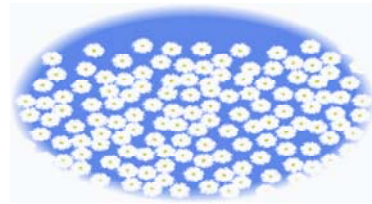
あの日のあなたに逢いたくて

谷川 萬太郎

いつの日かなにげなく訪れた片田舎の畦道に
仲良く身体を寄せ合って咲いていた白い花
清らに澄んだあなたの瞳が5月の風に吹かれ
白い雲に乗って爽やかな日和が暖かい街へ
過ぎし日の面影揺れる可憐な白い花の眩しさよ



あなたに逢えて良かったとそっとつぶやく霞草
花屋の店先であの日の懐かしさに出逢えた私
願いが叶うならばと素直な気持ちを打ち明けた
この小さな命がある限りあなたと暮らしたいと
慕う想いに匂うあなたの忘れな草になりたいから



スペシャリスト

竹本雅昭

◇テント倉庫：今日もみんなお疲れさま。

◆アメリカンレーキー

(スチールレーキ=熊手)

：あゝしんど。今日はよう働いた。

◇テント：どんな仕事したんや？

◆レーキ：あのですね。一つはチップーが

吐き出すチップのならし、もう一つは刈
払機が倒した草の整理。彩りの森がとて
もbeautiful!

◇テント：それはえらいご苦労やったな。そ
やけどチップーさんに比べたらのんびり
したもんやないか。あッ、そや唐鋤さん
も三丁揃って昼休みどっかへ行ってたな。

□唐 鋤：ハイ。「筍がまだ取れるかな」言う
て連れて行かれました。

◇テント：それでどうやった？

□唐 鋤：黒いのがニョキニョキ出てましたけ
ど、柔らかいのはさっぱりでした。

◇テント：そりゃあがったりやったなあ。

スコップさん。あんただけ下向きで、顔を地
べたにくっつけて、しょんぼりしてどうした
んや。

■スコップ：はあ  いつもやったら何かかん
か用事があるのに、全々お呼びじゃなかった
んで…………。

◇テント：そんなことでクヨクヨせんでもえゝ
がな、皆も呼ばれたら時だけ一生懸命やれば
えゝんやから。あんまり気張ったら、とんが
りが磨り減ってポイされるで。

□唐 鋤：わしなんか“ドッカ”とぶら下がっ
て力をたくわえ、出番待っとるんやで。

◇テント：さあさあ木工名人が造ってくれはっ
た棚でゆっくり休んで。明日からも「威風堂
々」(エドワード・エルガー作曲)の行進曲の
ように元気で行こうぜ。

○一 同：Oh!! Good night 

蕎麦文化あれこれ

ならやま・蕎麦文化クラブ

第一線をリタイアしたサラリーマンにとって蕎麦打ちはなかなかの人気のようだ。全国に数多くのサークルがあり、いろんな団体が段位認定をして、腕前を競っている。趣味が嵩じて、蕎麦屋を開店するケースも多く、周りを見回しても、脱サラと思しき蕎麦屋をよく見かける。

しかし、世の中に蕎麦打ちを楽しむ輩は多いが、畑を拓き、蕎麦を播き、花を楽しみ、蕎麦を打って、食べて楽しむことを一貫通貫で実践できる例は少ない。このまことに恵まれた仲間が、ならやま蕎麦文化クラブである。

ここで、蕎麦の歴史と文化に触れよう。



蕎麦の食物としての起源は、奈良時代に遡る。「曾波」「久呂無木(くろむぎ)」と記録に残っているが、食べ方は粥にしたり、「蕎麦掻き」にした程度のものではあったようだ。

蕎麦粉を麺にしたのは、17世紀初め頃といわれる。蕎麦掻きと区別するため「蕎麦切り」と呼ばれ、江戸を中心に急速に普及し日常的な食物として定着した。屋台でも手っ取り早く食べられる「ぶっかけ蕎麦」は、新興江戸の気質にぴったりのファースト・フードだったのだろう。

その後「ぶっかけ」に対して、皿や蒸籠に盛り、つけ汁をつけて食べる「盛り」蕎麦が

生まれ、江戸では「蕎麦を手繰る」ことに粋を感じるようになる。さらに深川の伊勢屋がザルに盛って出したところ評判がよく、これが「ザル」の始まりという。夕方、蕎麦屋で独り蕎麦を肴に酒を飲む」ことが通の趣味として横行する。

つゆに蕎麦をたっぷりと浸すのは田舎者、江戸っ子はさっとつけて啜り込むのを粋とする。落語の「そば清」の枕に、江戸っ子が「一度でいいから蕎麦のつゆをたっぷりかけて食ってみたかった」と言い残して事切れる、というのがある。江戸を舞台に多くの作品を書いた作家で美食家の池波正太郎氏の世界には、実に多くの蕎麦屋の場面があり江戸の雰囲気をかもし出す。蕎麦は江戸の庶民文化になったのである。

地方でも、それぞれの風土に育まれた蕎麦がある。田畑に恵まれない山間地の人の知恵と工夫の詰まった食文化がある。(当クラブでは、毎回各地の蕎麦粉を取寄せて勉強している)現代の恵まれた食生活の中で、蕎麦という素朴な食材に何故これほど惹きつけられるのか。蕎麦の産地を選び、手打ちの味にこだわり、遂には自分で打つところまでのめり込む。

多彩ではあっても既製品づくめの食生活、即席ものの食文化に飼い馴らされてきた男たちの、これはひそかな抵抗なのだろうか。(古川 記)



インタープリテーション 入門講座のご案内

自然教室チーム

インタープリテーションとは「自然の不思議や魅力を楽しく、分かりやすく伝える活動」のことです。

自然教室チームは校庭の自然観察会を担当していますが、子どもたちに楽しく、生き生きと自然の魅力を伝えるために、インタープリテーションの手法を使用しています。子どもたちと一緒に自然観察をするのも楽しそうだなと思われる方などを対象に、インタープリテーションを体験していただこうと、下記のとおり『インタープリテーション入門講座』を開催いたします。どうぞ奮ってご参加ください。

1.日時:7月9日(月)10時～15時(小雨決行)

1.集合場所と時間:10時

ならやまベースキャンプ

3.対象ならびに募集人員: 20名

* 小学校の「校庭の自然観察」
を児童と一緒にしてみたい方

* インタープリテーション活動
に興味をお持ちの方

4.詳細:会報7月号でご連絡いたします。

2.申込み:7月4日(水)までにFAXまたは
メールで申し込みをしてください。

倉田 晃



こもりく

隠口の初瀬街道を歩く

6月例会 大神神社から長谷寺へ

三輪、纏向の山裾を初瀬川沿いに、海石榴市跡、仏教伝来の地、慈恩寺、玉列神社、白山神社、黒崎(伝承 雄略天皇の泊瀬朝倉宮跡)から出雲(伝承 武烈天皇の泊瀬列城宮跡)、十二柱神社を経て長谷寺まで約10kmを歩きます。

長谷寺は朱鳥元年(686)天武天皇の病氣平癒を願って道明上人が創建、神亀4年(727)聖武天皇の勅により徳道上人が十一面観音(重文、11m、木造仏では我国最大)を祀ったことから観音信仰発祥の地といわれています。古来、女性の信仰が厚く、「長谷寺詣で」が流行し、枕草子、蜻蛉日記、源氏物語など平安朝女流作家の作品に登場します。

◆日程: 6月12日(火)

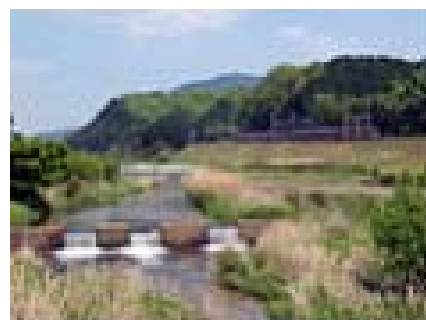
◆集合: JR桜井線「三輪駅」10時10分

(JR桜井線 時刻表)

奈良駅 →→ 天理駅 →→ 三輪駅		
9:02発	9:20発	9:32着
9:39発	9:54発	10:05着
桜井駅 →→ 三輪駅		
9:38発	9:41着	
10:00発	10:03着	

◆コース: JR三輪駅⇒大神神社⇒金谷の石仏⇒海石榴市(つばいち)⇒玉列(たまつら)神社⇒白山(しらやま)神社⇒出雲・十二柱神社⇒長谷寺⇒近鉄長谷寺駅(15時解散予定)

◆担当: 森 英雄
藤田秀憲



ならやま景観整備 & 情報BOX

◆ 活 動 予 定 日

6月	7日(木)	14日(木)	21日(木)
7月	28日(木)		
6月	5日(木)	12日(木)	19日(木)
7月	26日(木)		

◆場所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路（ならやま大通り）の
南側に広がる里山林地]

◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆終了予定：午後3時

◆アクセス：



① J R 平城山駅下車、

東口から南へ徒歩10分

② 近鉄奈良駅・バス13番乗り場

8:22発、高の原行き（平日）

③ 近鉄高の原駅・バス1番乗り場

8:22発 J R 奈良駅行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」
で下車 徒歩7分

◆携行品など：弁当、飲み物、軍手
（作業用具は現地で用意）

◆環境保護のため、
お椀、箸、コップなどは
各自ご持参下さい。



◆活動内容

- ・里山整備、環境整備、花木植栽等の景観形成、植生調査、椎茸作り
- ・復元した田畑での「旬の野菜、健康野菜の有機栽培」堆肥作り、土作り
- ・「市街地にある里山」を体験する各種イベント、学校授業「田圃の教室」
- ・広域里山パトロール（保全、ナラ枯れの点検、生物調査など）

◆連絡先：木村 裕

ならやまバードウォッチング

◇日時：6月11日(月) am 7:00集合

※5月～8月は夏時間です。※

◆集合場所：ならやま駐車場

◇小雨決行：判断の難しい時は
担当者に・・・。

◆連絡先：小田
菊川

7月例会予告

◇月日：7月10日（火）

◆集合場所・時間：近鉄御所駅 am 9:30

◇コース：御所駅→(バス)→長柄(葛城高宮辺り 長柄神社、一言主神社)→室 宮山古墳(葛城最大の古墳 襲津彦の墓)→【昼食】→(バス)→南郷(極楽寺ヒビキ遺跡 円大臣の館跡?)→かもきみの湯(休憩)→(バス)→近鉄御所駅(15:30予定)

※7月の例会は、酷暑の時期ですので、コミュニティ・バスを利用し、極力省エネで参りたいと考えています。コースは、葛城高宮周辺、襲津彦の墓、円大臣の館跡を訪ねる予定です。

平安時代以来の 金環日蝕



6時頃に起きたら、ピカピカのお天気である。ところが、7時には雲がかかりだして怪しげな空模様となった。それでも雲を通して見事な金環を見ることが出来た。約3分の素晴らしい日蝕であった。(坂東久平)

息づく自然

大阪市立大学附属植物園
(私市植物園) にて



▲ユリノキの花



▲イヌノキの虫こぶ



▲アオノリュウゼツランの花(昨年)



◀カラタネオガタマ



▲トチノキ



▲ウリノキの花

▼ラクウショウ(ヌマスギ)



▲コクサギ



- ①会員数 140名
- ②11期収支報告・監査報告・12期予算案
- ③11期事業報告・12期事業計画・会則の一部改定最終案
- ④ボランティア保険について
- ⑤新年度幹事業務分担について

編輯後記

正解者は、青木幸子・田中暉英・吉村さつき・板東久平・永渕元弘・小島武雄 以上の皆さんでした。【宿儺(すくな)かぼちゃ】は、順調に成長しています。収穫時までお待ちください。「ならやま活動日」に、公開抽選を行います。

（里山人）

境寬

(ベルギー・フランダース政府観光局HP)

◆◆ならやまの3つの池の愛称募集◆◆

第一の池は、灌漑用のため池として利用されていたが、長年の間放置されていたため、貯水力が皆無状態であったが、ほぼ完全修復できた。第二の池は、ペタキン養殖専用。第三の池は、「ならやまプロジェクト」で最初に着工したもので、ビオトープとして、水生生物の調査研究を続けている。それぞれの「愛称」をお寄せください。羽尻宛・メールでお願いします。

奈良・人と自然の会

鈴木末一